

# “わ”ふれあい

KSC 社会還元センター

ふれあい編集委員会

この春、二期卒業生のうち二一九名が“わ”に登録した。登録したものの、なにができ、なにをするのか、の期待と不安が大方の心境だろうと思う。

“わ”の創刊号を読んで“わ”自身の生みの苦しみが理解でき、創設以来一年間の各グループの歩みを知り、身近なものに感じた。

二期生のうちにもいろんな活動に参加した者もあり、とくに八月二十二、三日のトンボサミットのボランティアは大きな収穫だった。

昔は社会奉仕といえば奇特な慈善家というイメージをもたれた。しかし時代は変わる。厚生大臣の諮問機関である

中央社会福祉審議会の、或専門分科会は、四年程前に纏めた

「ボランティア活動の中長期的振興策について」と題する意見書で、現在におけるボランティアへの参加の動機について次ぎのように述べている。「慈善や奉仕の心だけでなく、地域社会への参加が自己実現、相互理解のため」であり、また参加の仕方もより自由な形、たとえば、経費や謝意を受け取る有償ボランティアも、本来の性格からはずれないという考えを明示している。

従来ボランティアには「無償性」「自発性」「公共性」

「先駆性」などが挙げられていたが、有償ボランティアの一つに「ボランティア切符(時間貯蓄)制度」などが出ている。これは介護や支援活動などのボランティアに



参加した度合に応じて切符が発行され、将来本人や家族に援助が必要になったときに世話をうけることができるというシステムである。これからの超高齢社会を迎えるに当たり、無償、有償を問わず、民間ボランティアと国民全員が相互に助け合えるような社会システムが必要とされることは必至である。

行政だけでは完全に対応できない。一人でも多くの民間ボランティアが必要とされる。行政は住民が主体となつて地域社会における社会福祉を实践するための組織として、社会福祉協議会を作つた。その前線基地がボランテ

ィアセンターである。

さてわがグループ“わ”もこれまで七グループの活動だけでなく、トンボサミットのようにグループの枠を越えた横型の活動が必要なのではなからうか。

これからは地域密着型に重点を移し、行政区ごとに迅速に対応できる体制にし、二十人規模程度の連絡網をつくり、各区ボランティアセンターと提携し活動の場を一層拡げていきたい。こんご毎年増えるであろう新会員にもなじみやすいのではないか。

## グループ“わ” 第二回臨時総会開催

来る平成十年九月十七日臨時総会を開催します。

総会の概要は次のページに記載の通りです。

どうか万障お繰り合わせの上ご出席下さい。

# KSC社会還元センター グループ“わ”

## 第 1 回 臨時総会プログラム

開催日時：平成10年9月17日(木)  
午前10時30分～12時30分

開催場所：神戸市シルバーカレッジ 大ホール

### 総会次第 第 1 部

1. 開 会 の 換 拶
2. 議 長 選 出
3. 運営委員長換 拶
4. 来 賓 換 拶
5. 事 業 報 告
6. パネルディスカッション

テーマ：[再び学んで他のために]

明日の“わ”を語る

### 第 2 部

1. 会 計 報 告
2. 規 約 の 説 明
3. 閉 会 の 換 拶

### 第九回全国トンボ市民サミット神戸大会

### 神 戸 宣 言

「人と自然が共生するまちづくり」をテーマに開催したこの大会には、神戸市民をはじめ各種の市民団体、農業団体、教育関係者、企業、行政など多くの方々が集まり、意義深いものとなりました。

私たちはこの大会の成果を二一世紀の子どもたちに引き継ぐため、参加者の皆様を中心に「人と自然が共生するまちづくりネットワーク」の結成をよびかけます。都市の中に大規模な農業地域を有する神戸市での開催を契機に、人と自然の共生、都市と農業の共生、人と人の共生するまちを住民、企業、行政のパートナーシップにより築き上げていきたいと思います。

一九九八年八月二三日

第九回全国トンボ市民サミット神戸大会

神戸宣言起草委員会委員長

中 瀬 勲

グループ「わ」とトンボサミット  
「わ」とトンボサミットの巻頭

赤とんぼ」の余韻を残す中で拍手が巻き起こった。カレッジホール最前列の席から振り向くと、拍手がウエーブし、次第に大きな輪になって響き合う。思わず熱いものがこみ上げる。後ろ向きのまま、会場を包む拍手の渦に加わった。感動の瞬間を演出したのは、「わ」（和・輪）になって力を合わせた全員だ。祝

福と惜別の思いが混じって、手の動きをさらに激しくさせた。

「ここまでやれたのはシルバーのおかげ」「シルバーパワーについて改めて感じるころがありました」協働した若いボランティアの率直な実感だ。私たちの間では「若い人の行動力、企画力にふれ、良い刺激になった」「また一緒にイベントをしたい」という声を聞いた。

私たちにとってトンボサミットの成果とは何か。「しあわせの村」と「シルバーカレッジ」を舞台にして、「市民文化を創

造するイベントに参画できた」という確かな手応えを得たことだ。それは、新しい時代へつなぐ風を起こそうというサミットの理念に通じるものでもある。

サミットを構成し、運営する上でポイントが二つあった。一つはサミットの核となる専門（学習）性、もう一つは大都市神戸の一般市民を対象とした、楽しみながら参加してもらえらる総合性、この両面のバランスを高い水準を保つて考え、さらに神戸

カレッジパワーの発揮 代表 福原克巳

トンボサミットの中瀬委員長が、直前に開かれたシルバーカレッジの夏期講座で「わ」の協力を取り上げて下さった。二十三日の笹山市長の歓迎挨拶で『今後の街づくりに必要な人材を育てるのがこのカレッジです』と全国からの参加者に披露された。お世辞と判っていてもやはり嬉しかった。

二十一日から二十四日まで、準備から後片付けまで在校生を交えて約三百人が動いた。大成功の大会裏方として、カレッジパワーを発揮した。サミットの若いスタッフがあびつくりしていた。この体験を今後の活動に活かしたい。協力して下さい皆さんに心からお礼を申し上げます。

阪神大震災直後、私たちは「再び学んで他のために」と、学習や社会体験の成果を積極的に地域社会へ還元する道を進んだ。在学時代はボランティアセンターの旗

の下に集まり、卒業後は「わ」を中心に発展した社会還元活動の線上に、今回のサミットは置かれていたのである。ビッグイベントを通じ、シルバーカレッジ及び「しあわせの村」の存在が参加者や新聞、TVによつて神戸市内外にアピ

ールできたのは大きな収穫だった。

人と自然が共生し、共に再生できる場として生涯教育機関・シルバーカレッジ、総合福祉ゾーン・しあわせの村のイメージアップが図れたと思う。

「複眼で見よう」がトンボの置き土産だ。

らしいアイデアを加味できれば…と願った。これらの要素に多彩な顔ぶれが時間をかけて取り組んだ結果、成功に結びつけることができたが、私たち「わ」とシルバーカレッジ現役組、そして「しあわせの村」関係者三位一体の市民参加呼びかけが果たした重みは、今後の私たちの活動に貴重な指針を与えることにもなった。

原点に戻って、ボランティアとは、の問いかけ、参加の自主性、運営面での経験やノウハウに関する知識、役割分担とパートナーシップ等々。別項での検証の中から広い視野で新たな前進への手がかりを求めてみよう。

実行委員会副委員長 小島 哲（二期生）



サミットには全国から約一三〇団体が参加、大会第一日目(八月二十二日)には神戸や明石におけるビオトープ保全地域を三コースに分かれて見学するバスツアーが行われた。震災後の復興で元気に頑張り自然環境保全に取り組んでいる市民の姿を見てほしいとの願いを込めた見学会でもあった。

北コースに参加した見学者からはバスの中で次のような言葉も聞かれた。埼玉からの参加者は「私どもの地元でもトンボが少なくなっている。復興なった神戸の環境を知るためにやってきた。そして神戸ではどんな問題があるのか?も知りたい」。千葉からの子供連れの参加者は「子供の夏休みの宿題のためにやって来た。もっとトンボのことを知っておきたいので。私自身も環境関係の仕事をしている。トンボは環境保全の指標であるので大切にしたい」など環境にたいする深い関心がうかがわれた。

北コースの最初の見学地は美囊郡吉川町法光寺。酒造米の産地で、小さな池が点在、多様な水辺空間を形成している。

この地区ではキイトンボやアオイトトンボなどが見られた。同行の大嶋範行氏によると「自然が豊富で植物も多い。トンボは七月ごろには十種類、現在は六種類、秋にはもっと多く見られる」とのこと。

次の見学地は六甲山系あじさい池。ここではオオルリボシヤンマが多く見られた。続く訪問先、君影小学校は三方が里山に囲まれ、恵まれた自然環境にあり、トンボのビオトープのほか炭焼きなどの活動も行われていた。このトンボは人を怖がらず手で触っても逃げない光景もあって、トンボを間近に見ることができた。カメラによる接写を試みる人もあった。

最後の見学先は押部谷町木見地区。ここは道路や圃場整備などの開発によって昔ながらの環境が失われ大きく変化したとのこと。自然環境を取り戻すため農家ではドジョウの養殖に取り組んでおり、元気に泳ぎ回っている多くのドジョウが見られた。以上、北コース見学の一部を紹介した。各コースとも新神戸駅前を十二時三〇分に出発した。他の二コースの見学先は次のとおりである。

◎中央コース

(公園池のトンボと水辺保全団体との交流)

①御影小学校ビオトープ(東灘区)

「森のまる池」というビオトープは学校関係者と地域の協力によって九七年着完成した。まちの中にもかかわらず、多くのトンボが観察される。

②奥須磨公園(須磨区)

約二〇ヘクタールの都市公園で園内は7つのため池、小川、雑木林、照葉樹林などがある。また、「奥須磨公園にトンボを育てる会」が中心となって、四季折々のイベントを開催している。

③塩屋台公園(垂水区)

今は夏のチョウトンボの乱舞、冬の水鳥の訪れなど、住民に親しまれている。九七年には「塩屋大池の環境を守る会」が結成された。

④名谷小学校ビオトープ(垂水区)

九二年に作られた神戸最初のビオトープである。池底は粘土で作られていて、二九種のトンボが確認されている。

⑤垂水下水処理場ビオトープ(垂水区)

下水処理場の高度処理水を活用した水辺のビオトープである。

目標は、市民に親しまれる懐かしい水辺の再生である。

◎西コース

(平地のため池のトンボと巨大オニバ)

ス)

① 清水谷池 (西区)

まわりを田んぼや林で囲まれた谷池で近年のバス釣りブームの影響で、外来魚の放流による生態系の破壊や釣り人によるゴミノ放置などの新たな問題が起こっている。

② 梳台小学校ビオトープ (西区)

水田と池で構成されている。池に移植された水草の多くは近くのため池で採取されたものである。

③ 神出自然教育園

自然観察や農作業などの体験学習を目的とした教育施設である。園内には農業ほか、豊富な地下水を利用した池や水路があつて多くのトンボがみられる。神戸市内では最大規模のオニバス群生地として有名である。

④ 明石・西島大池のオニバス (明石市)

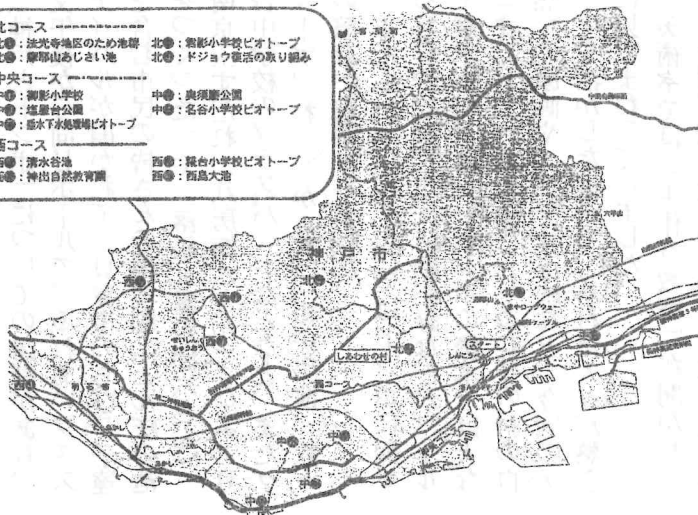
オニバスは絶滅の危惧される水草のシロポルの存在である。西島大池は全国一の規模を誇る群生地とされている。

(松井 孝 / 横田 穰・二期生)

(注) 環境用語「ビオトープ

「生きものの生存を保証する環境要素と最小の地理的空間」の意。ドイツの生物・地理学会で用いられた。

- |       |                |                |
|-------|----------------|----------------|
| 北コース  | 北●：法光寺地区のため池群  | 北●：養影小学校ビオトープ  |
|       | 北●：摩耶山あじさい池    | 北●：ドジョウ復活の取り組み |
| 中央コース | 中●：御影小学校       | 中●：美須原公園       |
|       | 中●：塩屋台公園       | 中●：名各小学校ビオトープ  |
|       | 中●：地下水処理場ビオトープ |                |
| 西コース  | 西●：清水谷池        | 西●：梳台小学校ビオトープ  |
|       | 西●：神出自然教育園     | 西●：西島大池        |



◆お知らせ  
 今回のトンボサミットのビデオテープ(六〇分)を「わ」事務局に保管しております。ご希望の方にはお貸しいたしますので、申し出てくだ  
 さい。

3つの見学コース

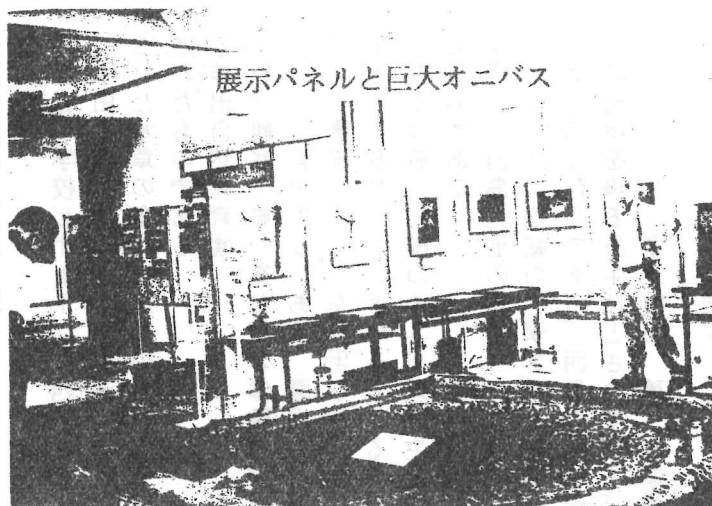


ビオトープ池の見学と自然観察のこどもたち

## トンボサミットイベントあれこれ

“シルバーカレッジロビー他”

神戸は大都市でありながら、郊外に農業地を持つ珍しい町、そして今なお八十九種類ものトンボが生息するといわれています。



展示パネルと巨大オニバス

今回の全国トンボ市民サミット神戸大会の会場はこのシルバーカレッジです。

各会場ではそれぞれに人と自然が共生する街づくりを進めるために、いろいろな話し合いや講演、見学会などが行われました。

カレッジホールでは、八月二十二日の

午前中、夏期講座として、青木典司先生の

「神戸とトンボ」についての講話があり、

又午後から同じホールで、ふれあいフェス

ティバルが開かれて、貝塚市のちびっ子達

を含む市民の皆さんの環境劇「とんぼの池

をつくつた」や、落語（露の団六さん）、

南京玉すだれ（八房梅六さん）、ひよどり

台中学校のプラスチックバンドなどなど、またグ

ループ“わ”からも二組が出演、数々の

演芸が披露されました。

またふれあいホールではトンボに関す

る写真や絵画、市民活動記録などがパネル

で展示され、珍しいトンボの標本、巨大な

「オニバス」の実物、「しあわせの村の自然」

の原画や、ビデオ上映など、今回のテ

ーマを活かした展示で、訪れた人々が熱心

に見てまわっていました。

美術室では「手作り教室」が開かれ、

竹トンボ、割り箸グライダー、折り紙、ハ

イプラホルダー、パウチ、折り染めなど、

廊下の天井には風船で作られたトンボが吊

り下げられて、子供達を喜ばせました。

グループ“わ”の各部会も、中庭で

はチャリティバザー、飲み物、おでん、お

弁当など、またふれあいホールの中では、

コーヒーショップなどのお店を出して、そ

れぞれなかなかのにぎわいでした。

## 《参加催し店からの声》

\*チャリティバザー店（鷲野さん）

炎天下のテントで頑張りました。皆様

のご協力のおかげでおおむね好況でした。

完売を願ってやや安価に値を付けたので、

チャリティーバザー店の風景



売り上げも控えめだったかなと思いますが、其の分お求め頂いた方には喜んで頂けたのでは。暑かったけれどよかったです。

\*おでんの店 (藤原さん)

昨今世間を震撼させたカレー事件を考  
えて、踏み切るのには勇気がいりました。

トンボサミットの精神の自然と手作り  
に拘り慎重に特に衛生面に配慮しました。

暑いときですので全ての材料を当日の朝に  
納入してもらい万全を期しました。お陰で  
完売してほつとしました。共に販売のジユ  
ース、ビールも売り切れ、綿菓子などは子  
供達にとても喜ばれました。ご協力いただ  
いた皆さんに感謝します。

\*コーヒーの店 (和田さん)

この二日間、ふれあいホールでコーヒ  
ー(ホットとアイス)、生ジュース(還元)  
手作りクッキーを販売しました。皆さんに  
コーヒータ임을楽しんで頂けたらと、野  
の花などをテーブルに飾りました。そのせ  
いか随分沢山の方が見えて大忙しでした。

コーヒーのいい香りに引かれてか、お  
客様が集中し、賑やかで楽しく働けました。  
二日間で延べ九人の会員に協力していただ  
きました。売り上げの純益は“わ”の  
活動費に活用させて頂きます。皆様のご協  
力を深く感謝いたします。

\*実行委員会の店

みどりのTシャツとトンボの小冊子の  
売れ行きが好調でした。

\*アボックの店

植物をメインとした約十種類の出版物、  
トンボの絵はがきと可愛らしいスケールに  
人気が集まっています。

コーヒーのお店風景



\*どんぐりネット神戸の店

灘の酒「トンボ市民サミット98記念ラ  
ベル」が早々と売り切れ、トンボ(ピース  
手作り)(竹とプラスチック)トンボの  
ハンカチなどもよく売れていたようです。

(小林/岡本/和田・一期生)

我が愛するトンボは永遠に

◆日本書紀に神武天皇が大和の国見の折  
り、山並みを見て「秋津のとなめせる  
如し」と記述。これはトンボ⇄秋津が  
交尾しながら輪になって群飛する姿。

◆トンボの祖先は三億年前から地球に生  
息。弥生時代の銅鐸には秋津の姿が鑄  
出されている。いま世界に約五千種、  
日本には二百種近くが飛んでいる。

◆万華鏡のような複眼、時速一四五kmの  
記録保持者はギンヤンマ。昼から交尾  
する習性がある。幼虫(ヤゴ)は十回  
位脱皮して約一年で羽化。寿命は大体  
一年以内、赤トンボは約半年という。

◆お盆ごろ飛ぶのはウスバキトンボ、民  
話では先祖の霊が乗って帰る、またオ  
オヤマトンボの背中は観音様を背負つ  
ているとか。そのトンボは生薬でもあ  
る。シオカラ・ベニトンボは強壮剤、  
赤トンボの黒焼きは脾臓に効くほか、  
喉の病氣特に百日咳の特効薬だ。

◆トンボ市民サミットは有終の美で閉幕。  
甲子園の熱戦は横浜の優勝。その横浜  
はまたトンボサミット発祥の地。

◆同輩!サミットを契機に「トンボ返  
り」で心機一転。トンボのラブコール  
はノー!自然破壊だ。

(正 房)

# トンボ環境 『国際フォーラム』

八月二十二日(土)  
十三時三十分～十五時三十分



国際フォーラムの場面

「国際フォーラム」には留学生など十カ国、インドネシア、オーストラリア、ガーナ、フィリッピン、イラン、中国、台湾、韓国、ベトナム、フランスから十五名が参加。はじめに国際トンボ学会・井上清会長がスライドを映写しながら日本のトンボの種類、棲息状況、トンボにとっての環境などを懇切丁寧に説明した。さらにトンボのための人工池の造成・管理などにも話がおよんだ。

このあと参加者からそれぞれのお国の状況、子供のときの話、質問が出された。参加者十五名のうち九名は神戸大学大学院博士課程の学生なので厳しい質問、意見もあった。

◇ ◎赤いトンボ、黄色いトンボはベトナムでは見かけない。(ベトナム)

◇ ◎子供のころはトンボを追っかけていたが、今ではしなくなっている。トンボの数が減っているのも原因のひとつであるが、興味がなくなってきた。(中国)

◇ ◎雨期の時期までが変わってきた。池を作ったり、田んぼがあると蚊が増えてその対策が大変である。トンボを育てると蚊の対策に役立つだろうか。(ガーナ)

◎以前はトンボがたくさんいたが現在は減っている。トンボを増やして蚊を退治できるだろうか。デング熱やマラリアを防げるだろうか。殺虫剤の役目をしてくれるだろうか。(インドネシア)

◎経済発展により自然環境までが変わってきている。子供のときから環境のことを教える必要がある。(台湾)

◎子供のときはこんな遊びをした。トンボを捕まえてバナナの葉っぱで作ったカゴに入れておく。蚊をトンボのエサにして、誰のトンボが一番元気か。(台湾)

◎都会ではあまり見かけないが田舎ではよく見かけた。日本では自然の再生・保護運動やトンボ池を作っているが多くは失敗しているのではないか。トンボ池でトンボが増えているか。(韓国)

◎トンボは確かに少なくなってきた。川が汚れてきており、蚊がふえている。(フィリッピン)

◎トンボは好きだし子供たちにとっても日本で住むのがいいのではないか。(フランス)

◎トンボを守ることは自然環境を守ることと同じことではないか。(中国)

『まとめ』大切な自然環境を次の世代に残していきましょう。(吉川・一期生)





大会二日目の八月二十三日(日)にはカレッジホールで十時から中瀬大会実行委員長のオープニングあいさつにつづいて笹山神戸市長および植松グラウンドワーク協会専務理事の歓迎のあいさつがあり、十時三〇分から「水辺の記憶」と題して河合京大名誉教授の基調講演があつた。

サルからヒトへの進化生態学的視点を踏まえた有意義な講演に満席の聴講者は真剣に耳を傾けていた。

午後は二階の三教室に分かれて分科会が行われた。

◆第一分科会は環境学習について「もっと自然を知りたいな」を主テーマに各パネラーからは①「トンボ立体マップのできるまで」と題して横浜市大道小学校でのトンボ池造り②「学校ビオトープ造りとその利用」と題して鹿の子台小学校のビオトープ造り③「子供たちと造ったトンボ池」と題して池造りの苦心、子供たちと生きものとのふれあい④「トンボ池を造ったばく」については、名谷地区で池造りに参加した中学生の感激等々の研究発表があつた。

◆第二分科会は市民の環境保全活動について『みんなで身近な自然を考えていこうよ』を主テーマに各パネラーからは①「NPOの概要」と題してNPOの組織とその目的、今後の方向性②「桶ヶ谷沼を考える会」と題して桶ヶ沼保護運動と、この会の基本的思想③「奥須磨公園にトンボを育てる会」と題して神戸市内の小学校や公園におけるトンボ池造り、里山との生産的交流。等々の研究発表があつた。

◆第三分科会は都市と農について『農はみんなのたからもの』を主テーマに各パネラーからは①「赤トンボが生まれているほんとうの意味」と題して田から生まれるトンボは身近な自然を代表し、美しい田は国の自然と農業が生み出した美意識②「圃場整備からドジョウ復活へ」と題して開発によって山間農地が減った木見地区における環境復活への取り組み③「消え行く水草：その現状と保全」と題して淡路・播磨地方に多いため池に多種の水草・植生、全国でも珍しい巨大オニバス④「農のなかのトンボ」と題して日本国土はトンボの生息地で都会・田園・自然の三パターン。トンボはその環境への適応性による。環境変化の指標としての役割が大。等々の研究発表があつた。

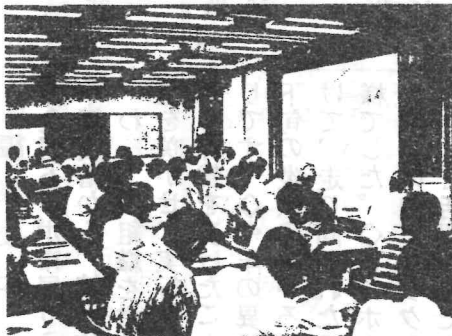
分科会終了後、十五時からカレッジホールにおいて全体会議が開かれ、各分科会とエクスカージョンの概要報告が行われた。

このあと次期開催地(高知)からのあいさつ、閉会のあいさつがあり、つづいて中瀬大会委員長による『第九回全国トンボ市民サミット神戸大会の神戸宣言』が行われて本大会が締めくくられた。

解散に臨み、カレッジのコーロKSC合唱団による「赤トンボ」に、会場からの合唱も加わって、きょう一日の興奮に別れを惜しんだ。

(横田 稷・二期生)

(注) NPO = No Profit Organization  
NPOs の略で、営利(利益)を目的としない組織の意。



分科会の一場面

## JR舞子駅のボランティアガイドが好評!

八月はじめ朝日、神戸新聞などの各紙で報道されたが、垂水地区のSCOB約四十五人（内“わ”の会員は三十人強）が明石大橋の本土側起点、舞子の案内役を買って出たことは、大方の会員諸氏もよくご承知と思う。

明石大橋の開通と共に、すつかり様相を変えたJR舞子駅周辺では案内板等の不備から、見物に訪れたお客がなにかと戸惑っている様子も多く見掛けるようになった。これを垂水区在住のSCOBが見かね、高速バスの乗り場、トイレ、観光施設などの場所を教えあげたりすることになった。土地不慣れの観光客には大変喜ばれて好評である。

今のところ土・日と祝日の午前と午後各三名づつ計六名が交代でガイドに当たっており、一日平均百五十件くらいの問い合わせに応じて大変重宝されている。出動したOB諸氏は事前に研修会を開き史蹟の学習をするなど張り切って活動している。これからは秋本番で最盛期になることだろう。さしあたっては十二月までつづけるが、寒期は避けて来春には再び開始する予定のことである。

## 地域別世話役の選定

最近各区のボランティアセン

ターをはじめとする諸団体から、福祉、介護やカーボランティア、講師派遣、イベント開催等の要望が多く寄せられています。これら地域型の仕事に対応するには、従来の各部会だけでは充分に機能しきれなくなっています。

従って企画委員会を中心に協議の結果、各区に世話役を置き、依頼先と連絡を強化すると同時に、会員相互の連絡を図りスピーディな対処をとることにしました。

現在のところ右に掲げる人達が決定していますが、無記名のところは折衝中です。

(敬称略)

東灘区	大工原 馨	一期生
灘区	岡 雄	一期生
中央区	原田資三	二期生
兵庫区	折衝 中	
長田区	橋本 豊	二期生
須磨区	浦上俊樹	二期生
北区	壇辻嘉雄	二期生
垂水区	岩田重彦	二期生
西区	児玉 浄	一期生

なお世話役を中心に連絡網の整備を図る予定です。また会員数の多い区は世話役を複数にすることも検討中です。

(事務局長 金川)

## 編集後記

◇全国トンボ市民サミット神戸大会では準備段階から、精力的に取り組んで来た“わ”の組織を挙げたパワーが見事に花を咲かせ、実行委員長をはじめ関係者から称賛を受けたことは何とも嬉しい限りです。◇今年の異常な気象、殊に八月下旬の炎熱の中いろいろな仕事を引き受けて、走り回られたことは本当にご苦労様でした。◇またホールでの講演会、分科会その他アトラクションの舞台裏で裏方として活躍された方々のご苦労は表にでないだけに是非ともお礼申し上げねばならぬことの一つです。◇どうやら今年前半の一大イベントは有終の美を飾りましたが、“わ”の活動はこれで終わつたわけではありません。◇さてこれからの活動方向はどうかと言うことになりました。今後の企画に期待したいものです。◇F部会の面々も記事の収集、写真撮影にと走り回り、何とか情報紙の発行に漕ぎつけることができました。

◇情報紙 “わ” ふれあいも二号がでます。年に二、三回の発行ということが発足したのですが、この分ではそれも言つていられなくなりそうです。

会員諸氏のご協力をお願いします。

(国際一期生 福田)